

東北関東大震災 日本人 & 人類の全ての力で 被災者を救おう！



サカタニ友の会ニユース

発行者
株式会社サカタニ
集西楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・
東山区七条こころ坂下
・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
とんからりんは
毎月発行の
会員新聞です
編集・酒谷義郎
yosi rou@sosake.jp

地球を「皮膚」のように全体を被っている「地表」その多くに水が溜まり海となつている。偶々溜まって水の下に皮膚が弾け乾いた部分を水が被った。大きな宇宙から見れば大震災もそう見えるだろう。

火の玉のような星が冷えて水や空気ができて、動植物ができ「人類」はその自然を利用して現代人になった。即ち人類は自然の産物である。

然らば自然の「枠」を飛び出すことは出来ない。先人達は自然を恐れ敬いその尊さを「神(仏)」として崇めて来た。ついこの間まで。

そして「知恵」が蓄積された人類は自然を軽視し無視、それを越える力があると信じてしまった。

太陽や水を使わずエネルギーを得るものを造った。それも最初に使ったのが人を殺す「原子爆弾」で広島長崎で実用にした。戦は終わったが更に強力な爆弾開発が進んだ。それは「駄目だ」と反対の声が広がる中で、浅田石二作詞・木下航二作曲による「原爆の歌」

ふるさとの街やかれ
身よりの骨つめし焼土(やけつち)に
今は白い花咲く
ああ許すまじ原爆を
三度(みたび)許すまじ原爆を
われ等に町に

どんな理由があれ、日本人の手で戦争

地球を「皮膚」のように全体を被っている「地表」その多くに水が溜まり海となつている。偶々溜まって水の下に皮膚が弾け乾いた部分を水が被った。大きな宇宙から見れば大震災もそう見えるだろう。

火の玉のような星が冷えて水や空気ができて、動植物ができ「人類」はその自然を利用して現代人になった。即ち人類は自然の産物である。

然らば自然の「枠」を飛び出すことは出来ない。先人達は自然を恐れ敬いその尊さを「神(仏)」として崇めて来た。ついこの間まで。

そして「知恵」が蓄積された人類は自然を軽視し無視、それを越える力があると信じてしまった。

太陽や水を使わずエネルギーを得るものを造った。それも最初に使ったのが人を殺す「原子爆弾」で広島長崎で実用にした。戦は終わったが更に強力な爆弾開発が進んだ。それは「駄目だ」と反対の声が広がる中で、浅田石二作詞・木下航二作曲による「原爆の歌」

ふるさとの街やかれ
身よりの骨つめし焼土(やけつち)に
今は白い花咲く
ああ許すまじ原爆を
三度(みたび)許すまじ原爆を
われ等に町に

どんな理由があれ、日本人の手で戦争

第75回朝粥食べておしゃべり会報告

3/20 3月第3日曜
今回の朝粥を食べる前
お話し 溝川長雄 様
(京の園芸福祉研究会
理事長)



お話しは、ハスのおいたちと文化史(ハスロマン)。インド原産のハスが如何にして世界に広まったかに始まり、その種類や栽培・日本各地の「ハス」の名所紹介など多岐にわたった。ちなみに京都近辺名所は三聖寺・万福寺・大覚寺常寂光寺・法金剛院・宇治市植物園など。おまけにハスの実で作られた数珠も見せて下さった。

東北関東大震災に参加者会費募金

今回の朝粥会開催日の9日前に発生した「東北関東大震災」の犠牲者へ悼み、開催に先立ち参加者全員で30秒間黙祷を捧げた。

「朝粥会」終了後「編集者」が当日の会費全額(7200円)に7800円加え朝粥会参加者一同の名にて「救援募金」にすることを「会」に表明し同意を得ました。

トントンとんからりん
で始まる岡本一平作詞の「隣組」の歌を合唱し
今こそ必要な
助け合いの精神
を確認し
あった。

岡本一平氏は
太陽の塔作者
岡本太郎の父
君である。

どんな理由があれ、日本人の手で戦争

「とんからりん」

ヤットコさで確定申告書を提出し、3月11日、4月の「とんからりん」の制作でパソコンと向き合っていた。パソコンの文字が微妙に揺れて見えた。高血圧なのでその眩暈かと思ったら直ぐ揺れは止まった。地震かも。

ギャラリに設置のテレビを見に行くと東北沖で地震とのテロップが流れていた。店の他の人は感じてなかった。血圧の所為でなく安心だと。やや間が空いて「東北の災害、地震」大津波「福島原発事故」と続々悲惨な状況が報じられた。原発の「メルトダウン」を心配した。

「メルトダウン」とは「炉心熔融」チエルのブイリ(ロシア)スリーマイル島(米)で起こっている。しかも福島には原子炉が6個もある。

海外だけでなく「中越沖地震」で柏崎・刈羽原発で事故があった。その時、国はどんな地震でも大丈夫と言っていた。が答えは「否」だった。

日本の、世界のため最悪の事態を避けるため、東電と国家は手早く全力を注いで欲しい。経過報告は良い。どうするかが問題。私は祈るだけだ。

私もは ああ許すまじ原爆をと「戦時用」のみに気がくらくらみ同じ核分裂を使う「原発」を許した。

だが「枠」を越えた人間の行為を地球と自然は罰した。



ヨシちゃん ひとりごと



第三の奇跡を 起そう!

東北関東大震災のエネルギーが引き起こした振動と大津波が起つて多くの家が流され、死者行方不明は2万を超えるという。悲惨で気の毒な姿がテレビで流れる。

「一つのお握りを半分は家内に食わせ、残りの半分を二つに分けて子どもたちと食べる」と言っている被災者の話を聞き涙が堪えられなかった。その上に、「福島原発事故」という人災が重なった。

そんな時、日経新聞の「私の履歴書」の今月の著者は建築家の安藤忠雄氏、三十一日はその最終稿



「人間的に未来」実直な国民性・想像力回復日本という文が

掲載されていた。それによると「第一の奇跡は明治維新で幕藩体制から近代国家をつくった事。第二は敗戦後の焦土の日本が数十年で世界有数の経済国になったこと。

そして第三は大震災を乗り越えて人間性を育む教育を行い自分なりの価値観をもつ「自

立した個人」をつくり、家族や地域への愛情をもった日本人の国民性回復しなればとあり、結びにフランスの詩人ポール・クローデルは同じく詩人で友人のポール・ヴァレーリーに「私はこの民族だけが有る。それは日本民族だ」と話したという。その日本は存亡の危機に(今)ある。今こそ第三の奇跡を起すべく、日本は真に変わらねばならない。」

(【内は編集者勝手に引用要約】地震と大津波そして原発の大被害を受けた東北を如何に復興させるかを世界は注目している。それは一に日本民族全員の肩にかつている。この危機と世界が注目している。東北の人たちの粘り強さ勤勉さを見習って日本人全員で第三の奇跡の起そう。

画竜点睛 開晴小中学校 開校を祝う

東山区は東山と鴨川東岸の三条から十条南まで南北に細長い行政区。そこには昭和時代終わりごろまで有済(ユウサイ)・栗田(アワタ)・弥栄(ヤサカ)・新道・六原・清水・貞教・修道・一橋(イツキョウ)・今熊野・月輪 ツキノワ と八つの

宮崎駿監督 「絶望する必要はない」 大震災への思い語る



宮崎駿監督(70)が28日、自ら企画したアニメ映画「コクリコ坂から」の主題歌を発表する記者会見で東日本大震災について思いを述べた。

「埋葬も出来ないままがれきに埋もれている人々を抱えてある国

で、原子力発電所の事故で国土の一部を失いつつある国で、自分たちはアニメを作っているという自覚を持っている」と話し、「今の時代に伝えるため、精いっぱい映画を作った」と述べた。

「残念なことに、私たちの文明はこの試練に耐えられない。これはこの年齢ですから一歩も退くれからどんな文明を作っていくつもりはありません。乳児については配慮しなければならぬが、模索を始めなければならぬ」と語り、「僕たちの島は繰り返し地震と台風と津波に襲われてきた。しかし、豊かな自然に恵まれている。」

東京などで避難や買い占めが起きていくことについて、「僕はこの年齢ですから一歩も退くつもりはありません。乳児については配慮しなければならぬが、模索を始めなければならぬ」と語り、「僕たちの島は繰り返し地震と台風と津波に襲われてきた。しかし、豊かな自然に恵まれている。」

開晴×で開晴です。辞書で調べて晴は「セイ・ヒトミ」と言う読みをすることを知らなかった。だから「瞳=晴」「ヒトミを開く」との意味出つけられた校名なのだと思える。が、晴と晴は何れも「セイ」と読めるので紛らわしい。晴が「ヒトミ」と書体を見て直ぐに理解できないと思う。誰が何時何処で決めなされたのか判らないが、「ワード」の辞書には「セイ」で検索しても出て来ず、「晴」は「作字」した。聞いただけで字が浮かんでこない「字」選ばれた方は相当の学者さんだろう。

私だけでなく学校の公的なホームページ以外の書きこみは殆んど「開晴」と書いてある。四文字熟語は流石に「晴」とでているが。名前も、ややこしいが通学路も大変だ。東山区で三条から七条まで真っ直ぐ通る道は、社寺が多くあることから、川端・大和大路。東大路の三本しかない。

通学に生徒たちが多く使うであろう「東大路」は京都でも名高い交通渋滞の名所。排気ガスが充満した狭い歩道を「幼児」たちは歩くことになる。決めた人はランドセルを背負って歩いて見たらどうか? とやかく言っても、四月五日はお目出度い開晴小中学校(開晴館スクール)開校式だ。孫も新しい制服を着て喜んでいる。言いたいことは書いたので立派な校舎で学び子供達の出発を祝おう!



京都&東山
ぶらりピカリ
28

七条「こゝろ坂」
七条 鴨東商店街

表題の「七条鴨東(オート)商店街」(以下「街」と記す)は2011年(昭和86)8月に、翌年の市電全廃の変化に対応するため結成されました。「街」は福田静二様がお書きの通り市電の一停留所間の南北両側の商店が参加しました。西は鴨川、東は博物館三十三間堂で商店人家はそこまで。肉屋魚屋さんも無く、菓子屋・飲食店など観光と京都女子学園の生徒さん相手のお店が多く街路灯もない夜は人通はピタリと絶える「街」でした。発足と同時に「商店街」は街路灯設置し夜は少し明るくなりましたが歩車道はブロック仕切り、市電撤去後に線路のみ除去し、その上にアスファルト舗装したため道路中央部が高く人側が低く歩き難い斜めの狭い歩道でした。「街」は京都市に毎年のように歩道改修を求めましたが聞き入れられず、1985年(昭和60)の京阪電車地下工事の機会を逃せば駄目だと有志で「七の会」を結成、市議会に区選出全市会議員

を通して改修請願を提出し全会一致で採択されました。それと並行して「通」の現状の姿と要望を「観光東山の玄関・七条の今・明日通」と題した20分の「ビデオ」制作。完成後ビデオテープを「市」と鴨川管理者の京都府にも提出しました。そのビデオには五条以南の鴨川河川敷が、その北の河川敷と違い全く整備されず放置状態でしたから「河川敷に遊歩道と櫻並木」設置要望も入れたのです。

ビデオ制作の当初から京都新聞とKBS放送の取材を受け、おとり、出来上がって直ぐにKBS TVに放映され記事にもなりました。その結果、東大路から七条大橋までの七条通中央部に埋設された「市電道床」を取り除く大工事が行われ、両側の民家との傾斜もなくなり歩道設置できました。平成元年6月のことです。京阪地下化後、線路敷地と「琵琶湖疎水」を暗渠にして鴨川東岸道路が造られ河川敷き整備の際、「街の提

市電が走った街
京都を巡る
福田静二



七条大橋から市電6号系統、鳥丸車庫行きに乗りました。サカタニさんの前を通り過ぎ、最初に着く停留所が「博物館



博物館三十三間堂前に入る6号系統。背後の街並みも変化している。

三十三間堂前」です。当停留所のように、二つの建造物・施設を示す電停名は珍しいことです。それだけに、付近には、著名な建造物・施設が揃っている証しでもあるでしょう。事実、ここから東へは、民家・商家が全く見当たらない区間となり、市電に乗っても、ちよつと身構えたものでした。また漢字で九文字もある電停名は、京都市電では最長でした。市電時代と比べると、南側の三十三間堂にも、北側の京都国立博物館にも、あまり大きな変化は見受けられません。三十三間堂の築地塀、博物館の煉瓦塀が、今も対照的に続いています。逆に電停より西の民家・商家は、建て替わっ



東を望むと、陽を受けた市電が東山七条からの下り坂を駆けてくる姿が見えた。

たり、業種が変わったりして、変化が見受けられます。西北角にあった大和病院の六階建ての建物もなくなり、かえって見通しが広がりました。そして、市電時代にはなかった歩道が整備されたことが、大



五条大橋から南の鴨川河川敷東岸の櫻を見る

きく変わった点でしょうか。市電は、ここから、上り坂にかかります。非力な市電は、モーター音も一段と高く上げ走り、東山の緑がぐんぐんと近づいてきます。私の市電時代の印象的なシーンは、真夏の夕刻でした。ちょうど、七条通の真向こうに陽が傾きかける頃、市電が坂道を駆け下りてきます。両側の街並みはすでに陽が落ちて暗くなる中、市電だけが前部を燦然と輝かせ、まるで千両役者が花道を行くように、スポットライトを浴びながら坂道を降りてきたのでした。さて、市電七条線の歴史を紐解いてみましょう。七条線は、まず大正二年に東山七条と七条鳥丸が開業、以後西へ延伸され、昭和九年に七条線は全通します。当停留所は当初「三十三間堂前」でしたが、昭和四十二年十二月に「博物館三十三間堂前」に改称されました。そして昭和五十二年九月をもって、七条河原町と西大路七条が廃止され、4・8号系統がなくなります。そして、残る東山七条と河原町七条は、鳥丸車庫から東山線を通る6号系統が京都駅前へと結んでいましたが、これらも京都市電全廃時の昭和五十三年九月をもって廃止されてしまいました。

酒屋で生きて 生かされて

第五十七話

喜一郎から一郎へ

祖父喜一郎は敗戦間もない1945年(昭和20)9月2日58歳で亡くなった。その年1月16日家から近い「馬町」に爆弾が落ち、急に「疎開」が始まった。家財を山科と宇治の炭山の親戚に分散して預け、私一人炭山の親戚に疎開した。商売の酒は配給も止まり、箸・歯磨粉、と配給の塩と極僅かの醤油味噌で細々と続けていた。「飲み屋」を任せていた超近眼の番頭さんも兵隊にとられ大衆酒場用の酒もなく休業中だった。「シンきつとん(番頭さん)まで兵隊にするのやから日本は負けるかも」と祖父が呟いていた。

祖父はその後(5月頃)炭鉱に勤労奉仕に行っていたが7月ごろ病になり京都に戻っていた。父は兵役で家は祖父父母と(義)母と異母妹がいた。父は(昭17)兵役についてたが「陸軍航空学校」の事務官になり後兵役を解かれ軍事物資調達業務をして家に殆んど居なかった。私がお盆で疎開地から帰っている時「終戦勅語」がラジオで流れ日本の敗戦を病床の

祖父に伝えるとポロポロ涙を流した。祖父の涙はそれが最初で最後になった。病状が悪く疎開地に戻らず9月2日早朝亡くなり、死に水をとった。座敷で顔に白布を掛けて寝かせある祖父に、昨年亡くなった妹が(当時5歳)が「お爺ちゃん暑いやろ」と白布を除けて扇子で顔を扇いだ。

動物園や宇治川に魚釣り、ハイキング・商売で伏見の酒蔵や本町の「森口酒造」さんによく連れてくれた。炭山の墓地に毎年お参りする山道で「義郎は酒谷家の14代目やから毎年お墓にはお参りしいや」とも言っていた。幼児の私に酒の利き方を教えてもくれた。敗戦間なしだったが葬儀が終り、父は半分勤めながら、祖母や母達と共に酒屋商売に携わるようになるが、お酒は無いので、用になった。陸軍の仕事のツテで「シユウマイ」や「イカの塩辛」を仕入れて売っていた。製粉業もした。「物さえあれば何でも売れる敗戦後の日本だった。10月疎開から戻ると店の仕事を手伝った。父一郎の時代が動き出した。

日本古代史の謎 5

清水克彦

初代天皇神武の曾祖父ニギハヤヒが真床追衾(まことこおうふすま)で覆われて天孫降臨した場所は、筑紫の日向の高千穂の穂触(クシフル)の峯「日本書紀神代下第九段一書第一」とあります。その他、笠築の日向の高千穂の久士布流多氣、日向の襲の高千穂の添(ソホリ)の山の



高千穂の穂触(クシフル)の峯の神社

端の峰：の異常な声気が

戦時中疎開した学校
昭20年4月、10月まで疎開した学校。教室は二つ。複式授業で全校で疎開児10人含み50人ほど。当時は電気ガスも水道も無い地域、宇治のチベットといわれていた。田畑も少なく林業茶業が多かった。新聞郵便も三日に一度の配達で、京都へ帰るには京阪六地藏寺駅まで歩くしかなかった。曾祖父まで我家はそこに住んでいて墓地は今も其処にある。その村での生活は私を丈夫な子にしてくれた。今は人口増学校も立派だ。



宇治笠取第二国民学校

編集後記
〇3/11年
後。3月
末に個人的な事情がありで例月より少し早く「とんからりん」の制作に取り掛かっていた。
●その時パソコンの画面が少し揺れた。日ごろら血圧が高く薬を飲んでるので体の異常かとも思った直ぐ揺れは収まった。
○テレビを見ると東北沖で地震と報じていた。大津波のことは知らず紙面をつくりを続けた。1時間して初めて被害をやる。
●地震津波の大被害、原発の危険危機の非常時。東電の経過報告に過ぎない記者会見に危機感が無いと怒りを覚える。
○菅総理も「ハキハキ」しない。枝野氏と交替した方が良いのかも。そうも行かないのが政治の仕組みかと半ば諦める。
●ブームや人気。単純な言葉に乗せられて多数を与えたが何時も結果責任は国民だけが取られる。次回はシッカリ選びマヒョ!
○そんなこんなで「とんからりん」の記事変更を余儀なくされた。追いつこうとお許しください。
●28日に宇治市民から京都市民に戻った。行政サービスは宇治が格段良いが「根が京都人」戻って米寿まで頑張りたい。
○東北も応援したい。

が人々を呼び「天の命のよつめ」に自分下りてきた。自分を迎えるために歌い踊れ」といった。命じられたように人々が歌い踊ると、天から紫色の縄が垂れ下がってきた。地面に着いた紅幅に包まれた黄金の卵を持ち帰り安置すると童子に変わり成長して国王となる。その名は「首露」。

「駕洛国記」の亀旨は亀山

① 国土を支配せよとの天の神の命によって天から下る
② 布のようなものに包まれて降下する
③ 同一地名と認められる所に降下。
これが加羅系集団渡来の根拠です。日本書紀が、ニギハヤヒが下った地を九州南部に隠すためです

「駕洛国記」の亀旨は亀山